



千日紅



花言葉は「安全」

事故が多く発生している時間帯は？

先月20日(月)午後3時半ごろ、宮城県栗原郡金成町の市道で、道路を歩いて横断していた小学4年生の男児が、右側から来た軽乗用車にはねられ、搬送先の病院で息をひきとったニュースは記憶に新しいことと思います。日暮れが早くなり、午後4時ともなるとあたりは暗くなっています。右のグラフは『時間帯別の死亡事故件数』のグラフです。日没時刻と重なり時間帯に事故が多く発生していることが分かります。学校では、信号機のある交差点や横断歩道を渡る際に「右を見て、左を見て、また右を見て、車(の動きを)確認してから渡る」ことを指導しています。交通安全に関する声かけは、言っても言っても言い過ぎることはありません。これからも家庭での声かけをお願いします。また、登下校時の子どもたちの見守りもよろしくお願いいたします。



様々な反射材を利用した安全グッズと利用法

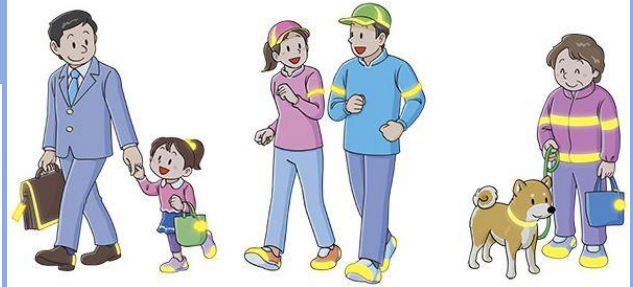
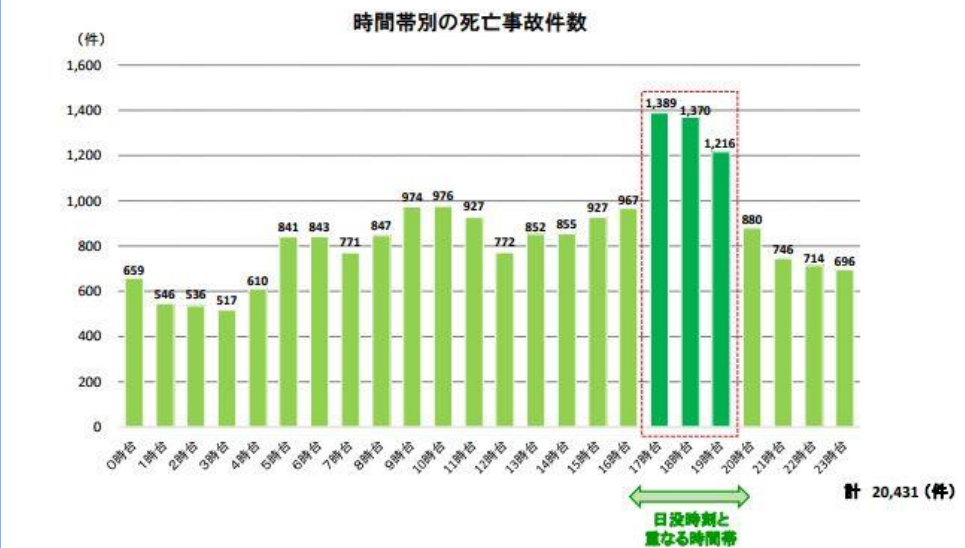


図 時間帯別の死亡事故件数(平成24年～平成28年)



その他
 転んだときの怪我の予防のために、帽子をかぶる、手袋をするなど、身に着けるものを工夫することも安全対策の一つです。
 転びにくい歩き方を知っていても、両手をポケットに入れたまま歩いたり、急いで走るとは危険です。また、飲酒時もバランス感覚が鈍り危険です。屋根の上の雪や氷が落ちてくることありますので、足元にも注意が必要です。歩く先々の屋根にも目を配り、注意して歩きましょう。特に、暖かい日は要注意です。

小さな歩幅で歩きましょう
 歩幅を小さくし、そろそろと歩く「ペンギン歩き」が基本です。そうすることにより、体の揺れが小さくなり、転びにくくなります。
靴の裏全体を路面に付けて歩きましょう
 つるつる路面では、体の重心をやや前におき、できるだけ靴の裏全体を路面につける気持ちで歩きましょう。
 また、履物は靴底が滑りにくいものを選びましょう。(摩擦係数の高いゴム長靴等)

坂道
 坂道は、上るときよりも下るときの方が滑って転びやすく危険です。下るときは特に注意しましょう。
ロードヒーティングの切れ目
 ロードヒーティングが切れた所から雪や氷が融けておらず段差ができて、部分的に滑りやすい状態になっていることがありますので、注意しましょう。
転びにくい上手な歩き方を知りましょう

バスやタクシーの乗り場
 多くの人で踏み固められて滑りやすくなっている場合があります。乗り場の路面状態を確認しながら歩きましょう。また、歩道と車道との段差にも注意しましょう。

横断歩道の白線の上
 白線部は、乾いているように見えても薄い氷膜ができて、滑りやすくなっている場合があります。
車の出入りのある歩道(車場の出入口、ガソリンスタンドなど)
 出入りする車のタイヤで路面上の氷が磨かれ、非常に滑りやすくなっている場合があります。

滑りやすい場所を知りましょう
 毎日の天気予報からは「この冬一番の…」というニュースが聞かれるようになってきました。冬期間は豪雪地帯に限らず、雪が少ない地域でも、積雪・凍結を原因とする転倒災害が多く発生しています。転倒災害件数は、降雪量にほぼ比例しており、例年一月～三月に集中して発生しています。事故が多く発生している場所を確認しておきましょう。

横断歩道の白線の上
 白線部は、乾いているように見えても薄い氷膜ができて、滑りやすくなっている場合があります。
車の出入りのある歩道(車場の出入口、ガソリンスタンドなど)
 出入りする車のタイヤで路面上の氷が磨かれ、非常に滑りやすくなっている場合があります。

一月～三月に集中しています

